



NPO法人 みどりのゆび

会報 2024年 秋号



21年目の会報を多くの方々へお届けし、
フットパスの参加仲間を増やしましょう！

ご挨拶 事務局・田邊 博仁

「みどりのゆび」の会報作成を
振り返って

①会報の創刊号（2003年5月1日）の表紙のみが手元にある。「NPO法人みどりのゆびの結成から、一年経ち、ようやく会報の発刊・・・」と事務局長・神谷由紀子さんの言葉で始まっています。（2006年～2008年：A3版・白黒片面印刷を二つ折りA4版、ホッチキス止め、10～18頁編成。2009年～2011年：A4版・カラー片面印刷、ホッチキス止め、3～4頁編成）

私が「みどりのゆび」を知ったのは2009年。NHKラジオで「今度、日本フットパス協会が発足・・・（神谷さん）」と知り、町田市民大学HATS「多摩丘陵の自然入門」（2009.4～12）を受講と同時に入会。2010年から事務局に参加。

②2012年より会報作成を引き継ぐ。発行要領には「年3回発行（1月新年号,5月薫風号,9月初秋号）、印刷原稿アップが発行前月25日、印刷・封入26日～当月2日、発送当月3日、配達見込み当月5日」とある。本文は田邊、スケジュールは神谷が担当。A4版・カラー片面印刷とホッチキス止め製本、発送は神谷・鈴木（郁）で分担。（2012年新春号～2015年5月号：A4版・カラー片面印刷。2015年9月号～2016年5月号：A4版・カラー両面印刷、PP版、ホッチキス止め、7～9頁編成）



③2016年9月号より、会報担当は尾留川,小林へ。現在のカラー印刷製本版（外注）となる。この号では、進士五十八さんから、現在の高見澤邦郎さんへの新旧理事長交代のご挨拶が掲載。（2016年9月号～2019年3月号：PDF版、12～20頁編成）

④そして、2020年早春号より現在まで、横山、田邊が会報担当。雑誌の編集経験豊富な横山さんの参加により、寄稿文の文章校正や校閲、写真レイアウトなどの編集作業のもと、現在の会報となっている。2020年の盛夏号は、日本フットパス協会設立10周年記念町田大会特集である。

年2回（春、秋）の発行、各フットパスの講師の解説文と参加者の感想文の2本立て編成を採用。表紙頁にハイライト写真掲載、編集後記も登場など、改善に努めています（2020年早春号～2024年秋号：PDF版、外注・カラー印刷製本、20～28頁編成）

NPO法人みどりのゆびHPの「活動の記録」、
「会報」欄には、過去の内容を掲載していますのでご覧ください。

この会報も、好評をいただき、会員のみならずへお届けするだけでなく、広く配布を行っています。フットパスをより多くの方々を知ってもらい、フットパスや宿緑地の管理へのご参加を願っています。お知り合いの方へのご紹介、配布希望の方がいらっしゃれば事務局へご連絡ください。



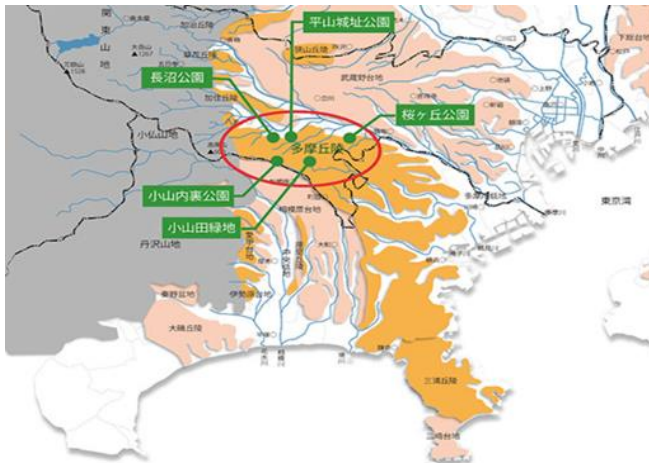
他のまちのフットパスをみてみよう
多摩丘陵の成り立ちを探るコース
を歩く

[講師：小林 道正]

崖の石と植物を手がかりにして

3月2日(土) 天気：晴 参加者：18名

多摩丘陵は東京都と神奈川県境界部の範囲で、高尾山の麓から南東方向に広がっています。「NPOみどりのゆび」が活動している小野路は多摩丘陵のほぼ真ん中にあたります。多摩丘陵の北端には多摩川と浅川が、南側には境川や鶴見川が流れています。



多摩丘陵の位置（東京都公園協会HPから）

<コース紹介>

京王線「南平」駅を出発して浅川の堤防を歩き、「都立平山城址公園」の中を通過、「東京薬科大学」までの道のり約4km、高低差100mを歩きます。



コースマップ

①京王線南平駅を出発します。

②浅川の土手を上流に向かって歩きます。

正面（西の方）に富士山や高尾山が見えます。浅川の対岸（北の方）には日野台地の平らな高台が広がっています。南側には木々に覆われた多摩丘陵があり、起伏に富んだ地形です。日野台地は約15万年前に浅川や多摩川の堆積物で造られ、多摩丘陵は約200万年から70万年前にかけて相模川の堆積物で形成されています。

③浅川の河原の石を観察します。

河原の石は、浅川の上流から流れてきたもので、コロコロ転がって角が削られて丸くなっています。種類は泥岩、砂岩、チャート、礫岩などの堆積岩です。

川の水が流れているところに岩盤が露出している、砂と泥の地層があります。この地層から貝の化石が見つかるのですが、半年前の台風で埋まってしまう、現在は採集することができません。貝の化石はホタテ貝の仲間です。この貝の化石が見つかることから、この地層が堆積したのは、冷たい水温の海だったことが推定できます。



浅川の岩盤の地層と貝の化石

今回は河原を見渡すとたくさんの草花が咲いていたので、ドライフラワーの植物標本づくりを行いました。準備した物は粉末状のシリカゲルと管ピンで簡単にできます。草花を管ピンの中に入れ、シリカゲルを充填します。2-3日後にシリカゲルを取り出せば完成です。



ドライフラワーの植物標本づくり

専用オイルを充填すればハーバリウムにできます。



春の草花の植物標本作品例

④京王線「平山城址公園」駅前で休憩です。
駅前の広場には源平合戦で活躍した平山季重の館跡の説明板と石碑があり、「日野市立平山図書館」では詳しい資料を見ることができます。
旧北野街道には「子育て地蔵」や「馬頭観音」が大切に保存されています。昭和の初めころには「武蔵野カントリークラブ」や「鮫陵源」などの娯楽施設があって、京王線を利用した多くの人々で賑わっていたそうです。

④から⑦までは坂道が続きます。高低差100mくらいありますのでゆっくり頑張って歩きましょう。

⑤多摩丘陵の崖を観察します。
今回のコースの重要ポイントです。高さが10m以上の表面がゴツゴツした崖が見えてきます。表面のゴツゴツした様子を双眼鏡で観察すると丸い石が堆積しているものと分かります。この石の形は③の浅川で観察した石と同じです。このことから多摩丘陵は水の働きで運ばれてきたものが堆積していることが分かります。
石の種類は泥岩、砂岩、チャート、礫岩などの堆積岩の他に、結晶質緑色凝灰岩、花崗閃緑岩などの火成岩も含まれています。これらの火成岩は③の浅川にはありませんでした。多摩川の上流にもありません。では、どこから流れて来たのでしょうか。答えは丹沢山地です。つまり、この崖の石は丹沢山地から流されて来たものだったのです。



多摩丘陵の崖と礫層

丹沢山地の石を運んできた川はどこにあるのでしょうか。それは相模川です。昔の相模川は東の方へ流れていましたが、今は流れが変わって南の方になってしまったというわけです。

多摩丘陵は丹沢山地の石を相模川が運んできたことが分かりました。とても長い時間と大きな力が働いてきたことを想像してみましょう。

⑥⑦タマノカンアオイを見つけます。
相模川が流れていたという、もうひとつの手がかりがあります。植物のタマノカンアオイとカントウカンアオイの分布です。タマノカンアオイは多摩丘陵に分布し、カントウカンアオイは浅川の北側に分布しています。その理由は「もともとカントウカンアオイは青梅から八王子や町田にかけて全域に分布していたところ、相模川がカントウカンアオイを押し流し消滅させ、その跡にタマノカンアオイが入ってきて現在に至っている。」という推論です。



タマノカンアオイ

⑧「東京薬科大学附属薬用植物園」を見学します。薬用植物園としては東京都内で最大の規模だそうです。



セリバオウレンの花のいろいろ

⑨⑩東京薬科大学バス停から、京王線平山城址公園駅または京王線京王堀之内駅へ行くことができます。

(文と写真：小林 道正)

他のまちのフットパスをみてみよう
桜の渋沢丘陵と丹沢の雄大な景色を
楽しむ

〔講師：田邊 博仁〕

秦野の桜と湧水群、自然の神秘的な
「震生湖」と「渋沢丘陵」を歩く

3月31日(日) 天気：晴 参加者：21名

丹沢山地と渋沢丘陵に囲まれた秦野は、神奈川県唯一の典型的な盆地であり、地下は「天然の水がめ（約7億5千万トン、芦ノ湖の水量の約4.1倍）」となり、多くの湧水が見られます。この「秦野盆地湧水群」は「昭和の名水百選（昭和60年）」に選定され、また、地下水をボトリングした「おいしい秦野の水」が「おいしさが素晴らしい名水部門」で全国1位（平成28年）に選ばれました。

秦野駅から、まず、有名な伝説の残る「弘法の清水」を訪ねました。古代から利用されてきましたが、1989年に地下水汚染が報道され、秦野市は国内初の地下水汚染防止条例を制定、改善に取り組みます。2004年には、環境基準を恒常的に下回ったことで「名水復活宣言」を遂げ、今年で20周年を迎えました。



古代から利用されてきた「弘法の清水」と復活宣言の碑

次に「室川」を訪ねました。秦野盆地湧水群は盆地南東の渋沢断層のこの室川付近に集中しています。約4万年前の渋沢丘陵（大磯丘陵）の隆起によって、南に向かって流れていた室川は、現在の東へ流れを変えました。

次に「今泉名水桜公園」を訪ねました。桜と名水をコンセプトとした公園の基本構想は、建築家の安藤忠雄氏によるものです。ほぼ一年を通して桜を楽しめるように開花時期の異なる18種類の桜が植えられています。今回は早咲きのコヒガンザクラが咲いていました。



渋沢丘陵の隆起によって流れが規制された「室川」



「今泉名水桜公園」にて、コヒガンザクラ前で

次に「まいまいの泉」を訪ねました。ここは地下水の監視用に掘られた井戸を利用して、地下20mから地下水を自噴させています。持参した紙コップで試飲を。私はコーヒー用にペットボトルに詰めました、多くの市民に利用されています。



公共の水場、形状がカタツムリに似ている「まいまい泉」

次は「白笹稲荷神社」です。赤色の大きな鳥居があり、「関東三大稲荷」の一つです。拝殿の天井絵は圧巻でした。格天井150枚の竜神様、風水四神など見ごたえがありました。

「震生湖入口」交差点から畑道を登っていくと、周囲にさえぎるものが全くなく、秦野市街が一望。そして、丹沢の山並みを真正面に見ることのできる雄大な景色が広がります。



雄大な丹沢山地の眺望を楽しむ

尾根道からの眺望を楽しみながら、「震生湖」へ下ります。関東大震災で誕生した湖です。地滑りの起こった跡を見て、震生湖畔で昼食タイムです。2021年に文化庁の国登録記念物に登録された記念碑が立ち、地形図や写真も掲載されています。



震生湖、桜が咲き出しました

震生湖から渋沢丘陵の尾根道を歩きました。標高200m程度のなだらかな丘陵です。渋沢丘陵を下り渋沢駅へ向かう途中で、早咲きのソメイヨシノに、「やっと！」出迎え、みなさまから、感嘆の声。テーマの“桜の渋沢丘陵”がご覧いただけ、ほっといたしました。



最後に、“桜の渋沢丘陵”に、出合えました

(文と写真：田邊 博仁)

フットパス・渋沢丘陵に参加して、 「最後に驚きのフィナーレが」

昨年春から町田市の「里山ウォーキング」に参加して、会員の横山さんから「みどりのゆび」を紹介され、今回は田邊さんの「かつての野麦峠(11/30)」以来の2回目参加でした。

3月31日は例年なら関東では桜の満開の時期、まして日曜日なので賑わっているはずでしたが、今年は開花が非常に遅れていました。

秦野市はたばこの栽培が盛んと聞いていましたが、名水百選「秦野盆地湧水群」が制定されて市内各地に湧き出ていることを知り驚きました。「弘法の清水」など湧水スポットを巡り、おいしさ部門全国1位に選ばれたというボトルドウォーター「おいしい秦野の水～」を味わうこともできました。

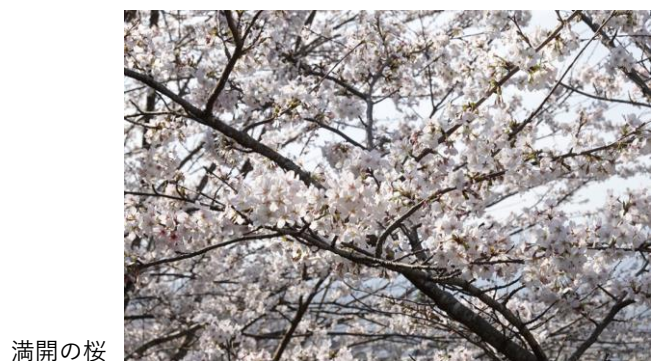
昨年が、発生から100年の節目だった関東大震災で滑落した土砂が川を堰き止めて誕生したという「震生湖」。寺田虎彦の句碑と「地震の規模の大きさを伝える貴重な地質遺産」と書かれた案内文に納得。

県道沿いの長さ6キロ以上に続く桜並木「はだの桜みち」は、まだつぼみでしたが高いところから俯瞰して見ると、長い桜のアーチが想像できました。機会があったら、満開の時期に来てみたい。

まもなくゴールとなる渋沢駅少し手前に驚きのフィナーレが隠されていました。満開のソメイヨシノに巡り合ったのでした。参加者の歓声が上がりました。桜吹雪も体感でき大満足のフットパスでした。巧みな演出をしていただいた講師の田邊さんありがとうございました。



大山と桜



満開の桜

(文と写真：香丸 宏)

小野路のフットパスコースをみてみよう
 新会員が増え、改めてフットパスの
 原点である小野路コースを歩きます
 [講師：田邊 博仁]

布田道、里山、小野路宿場街、
 小野路城址を訪ねる

4月20日(土) 天気：晴 参加者：15名

最近、ありがたいことに、新入会員さまが、増えてきました。「みどりのゆび」のフットパス発祥の地「小野路宿」と「小野路城」の二つのコースマップを見ながら、ご案内をしました。

スタート時に、フットパス（目、口、頭を重視の文科系）とウォーキング（下半身重視の体育会系）の「歩き」の違い、また、「小野路宿緑地」では「みどりのゆび」の歩みをご紹介します。

別所バス停をスタート、江戸時代からの「布田道」、近藤勇らが出稽古に通った道ですと古道談義をしながら進み、二股の道を小野路宿へ。



美しい竹林と気持ちの良い布田道を歩く（写真：浅黄）

休耕田と「みどりのゆび」が管理を行っている「小野路宿緑地」へ出る。休耕田の一部再生や緑地管理、「みどりのゆび」の歩みも紹介。



「小野路宿緑地」にて（写真：浅黄）

再び、二股へ戻り、道標「妙桜寺」の道を進み、多摩丘陵らしい山々の緑と野菜畑の里山風景を歩く。途中で落ちていたムクロジの種子で石鹸代わりの泡立てをペットボトルで披露。恵泉女学園大学の実習農場と大学校舎の横を歩き、「一本杉公園」へ、ここで一休みして「もぐもぐタイム」を。



一本杉公園で「もぐもぐタイム」で一休み

一本杉公園に残る徳川家康の神霊を久能山から日光へ運んだ「御尊櫃御成道（ごそんひつおなりみち）」の古道跡を紹介し、鎌倉街道の道を下り、布田道と交差点の「関屋の切り通し」へ出る。



昔からの生活道の雰囲気がある鎌倉街道を歩く



重厚な雰囲気にもまれた「関屋の切り通し」

小野路で有名な「ピアノカフェ・ショパン」に立ち寄り、「小野路宿里山交流館」にて、定番の「うどん定食」をいただきました。



多くの若手ピアニストを育てた「ピアノカフェ・ショパン」の前で



昼食後「小野路宿里山交流館」の長屋門前で

午後は、「小野神社」、「六地藏」を巡り、「函師小野路歴史環境保全地域」内を歩きながら「小町井戸」、「小野路城址跡」をご案内。そして里山の自然が残る「奈良ばい谷戸」をご案内。再び、小野路宿里山交流館へ戻り解散しました。



六地藏前にて

(文と写真：田邊 博仁)

歩くたびに新しい発見と驚きのある小野路

天気はまあまあ晴れ。ポカポカとした陽気は、暑すぎず寒すぎず羽虫の類もまだまだ少ないウォーク日和。田邊さんの案内でよく喋って笑って、たくさん道草をしたフットパスらしいイベントでした。偶然行き会った人の「(カフェ) モーツァルトに行きたい」との言葉に、「ショパンですね」と言葉を引き取った田邊さんのナイスプレイに大笑いさせていただきました。



ガイドの田邊氏

ソメイヨシノは終わっていましたが、ナノハナは満開を少し過ぎてトウを伸ばした頃合い。ハルジョオンやキンラン、ショウジョウバカマなどピンク白紫黄色の様々な花が咲いていて、ちょうど参加していた横山さんに色々とお話させていただいたのは有難く、春らしい花々と新緑の空気を満喫できました。

福島から参加した今回の歩きで、新しく果樹や野菜の木村さんの畑、牛牧場、小野路宿里山交流館でタケノコの姿寿司を知ることができました。特にタケノコの姿寿司は再訪して食べたくなる魅力がありました。

今回のイベント自体は特に「みどりのゆび」に新しく関わった会員さん向けに開催したとの話でしたが、小野路は歩くたびに新しい発見と驚きがあり、季節やガイド、一緒に歩く人で印象が変わる、何度歩いても尽きない面白さがありますから、今年も来年もまた歩きに来ようと思いました。



小野路宿里山交流館のうどん定食とタケノコの姿寿司

(文と写真：北浦 鑑久)

フットパス専門家講座
美の基準のある真鶴 背戸道風景を巡る
〔講師：浅黄 美彦〕

「背戸道」と呼ばれる路地を歩きながら
真鶴の魅力的な生活風景を巡りました

5月16日(木) 天気：曇 参加者：11名

10時に東海道線「真鶴」駅に集合、それだけでなんだか旅に来た気分。戦前の駅舎の前で、「今日のコースでは、海、坂道、みかんの木、古い家、あるいは点在する空き家を利活用した移住者のお店を訪ねながら、自然地形の残る真鶴のランドスケープを感じていただきます」とコースのアウトラインを説明し、スタートしました。

まずは「本と美容室」を訪ねる。真鶴では、車が通れない路地や坂道のことを「背戸道」（せとみち）と呼びます。その背戸道を上りきった丘の上に、古い平屋の木造住宅を改装したものが本と美容室です。生け垣と広い庭が心地よいお店です。外観だけ眺めるつもりが、声をかけていただき内部を見ることができました。髪を切る部屋の奥のほうに本がたくさん置かれている部屋があり、窓からの光がちょうど入り、窓辺で本が読め、珈琲も味わうことができる癒される場所がつけられている印象でした。



本と美容室 外観



本と美容室 内部

次に訪ねたのは「真鶴出版」。木曜日はお休みなので外観のみですが、背戸道沿いの空き家を、真鶴町の「美の基準」にそって、自らの移住の意味に想いを馳せながら、建築家（トミト・アーキテクチャー）との協働で造り上げた「泊まれる出版社」です。



真鶴出版

さらに背戸道のアップダウンを歩き、石工の碑や丘からの海を眺め、真鶴らしい風景を楽しみました。



石工の碑 階段前での集合写真

若い移住者が営む店の締めくくりは、「パン屋 秋日和」。2019年にご夫婦で開業したパン屋さん。11時の開店に合わせてやってきました。外観も接客もほのぼのとして真鶴時間を感じさせるお店でした。山食パン、ラムレーズンなど、みなさん買い物も楽しんでいただきました。



パン屋秋日和

午前中の最後は、真鶴フットパスのもうひとつの目的、美の基準に基づき造られた渾身の公共施設「コミュニティ真鶴」の見学です。財政難の折りなのか開館日が少なくなり、まさかの休館は残念でした。ただ敷地内には自由に入ることができるため、中庭、背戸道との関係などを間近に見ることはできました。1994年竣工、設計は美の条例にも関与していた建築家・池上修一さん。



コミュニティ真鶴

コミュニティ真鶴から昔ながらの商店街を歩きながら港へ。西仲商店街は住民のための商店街で、のんびりとした空気と懐かしい風景があります。床屋、美容室が多い真鶴の中でも一押しの床屋がありました。



真鶴の床屋

昼食は港にある「真鶴魚座」で和気あいあいでお魚をいただきました。

満腹となり、午後のはのんびりとお土産の干物などを買いつつ、岩海岸に向かい、途中いくつかの道祖神、高台からの海を眺めつつ、鄙びた岩海岸を訪ねました。あまり観光地には立ち寄らず、真鶴のふつうの風景を歩くフットパスでした。

真鶴駅近くの「あけびや珈琲店」の前で解散。



真鶴魚座前

(文と写真：浅黄 美彦・田邊)

「美の基準」の実感にワクワク

「みどりのゆび」のフットパスには今年度からの参加ですが、今回は真鶴の街中を中心に回りました。集合時間の朝10時、天気は雨が降りそうな曇り空でしたが午後からは晴天となり、景色も堪能できました。

20年以上前に車で岬の方をぐるりと回って以来2度目の真鶴でしたが、今回はお約束のところでなく街中をじっくりと歩きました。

見て回って思ったことは、アップダウンのある場所に昔からの住宅が残っていることと、その中にリノベーションにより雰囲気の良い店舗が予想以上に目についたことでした。

午前中はリノベーションされた店舗や特徴のある建物を中心に見て回り、そのセンスに驚きました。外観だけでなく中も素晴らしく、「ここが真鶴なのか」とさえ思えました。特に「本と美容室」さんでは、中まで見学させていただき、おしゃれだなど実感しました。

道は登り下りがやや大変でしたが、次はどんなお店があるのかと思うと、大変さも吹き飛ばすようなワクワク感がありました。午後は景色がよく見えるところを通りながら「岩海水浴場」まで足を伸ばしました。

お土産として地元で有名なパン屋や干物屋も巡り、おみやげもバッチリでした。

解散後に地元の喫茶店でケーキセットをみんなで堪能し、良い締めくくりになりました。



本と美容室
入口ドア



真鶴道路
岩大橋
岩海水浴場



あけびや珈琲

(文：太田 義博 写真：田邊)



難関部分も楽しい



ミヤマエンレイソウも発見！



昔は魚野川を利用した水運商業地：船着き場



浦佐フットパス道標
(写真：伊藤)



浦佐毘沙門堂 (写真：伊藤)

(文と写真：神谷 由紀子)

フットパス関東・東北のミニ集会に 参加して

新潟県南魚沼郡浦佐で行われた関東・東北のミニ集会に参加して来ました。

浦佐フットパスは、魚沼地域の自然を活用した小さな観光の試験的ツアーとしていますが、内容はとても濃いものでした。特にガイド役を歴史や逸話に詳しい地元の方々がつとめ、知識が豊富で地元愛に溢れている様子が伺えました。またコースがコンパクトで見所が多く分かり易かったです。携わる方々の想いが参加者に伝わるのが大切ですね。

参加者は31名で、各地のフットパス団体、地元新潟県の行政機関の方々と幅広い顔ぶれでした。これも主催者である「浦佐地域づくり協議会」の方々の努力の賜物と思います。交流会では、地酒八海山が振る舞われ、ほろ酔い気分で想いや課題を語り合えたことは有意義でした。

新潟県南魚沼では、コシヒカリの産地としてのブランド力向上と交流人口数の拡大を目的とした食のキャンペーン「南魚沼、本気丼(マジどん)」を実施しているとのこと。

浦佐には、美味しいご飯を食べる楽しみもあり、また行ってみたいと強く思いました。



田植えを待つコシヒカリの苗。美味しいお米はここから



南魚沼、本気丼(マジどん)

(文と写真：伊藤 右学)

フットパス専門家講座
**奥相模野、タツゴ（龍籠）山麓の
 古代集落（境川源流域）を歩く**
 [講師：古街道研究家 宮田 太郎]

古代国境・境目の地域
 （相模原市緑区城山）のフットパス

6月16日(日) 天気：晴 参加者：15名

6月は気温を考え、午後の半日コースで開催。当日は横浜線のJR「相原」駅西口バスターミナル脇の広場に集合。気温30度ながら総勢15名の方が参加。バスを降りた相原地区の「水ノ口（みのくち）」は、私が若い頃に調査していた「相原の鍛冶谷戸」にあり、鉄鍛冶遺構に伴うノロ（鉄滓*てっさい）を採取したことがある地です。

そして大きな団地「武蔵岡住宅」を抜けて境川へ…。クレソンが群生する清流が小さく「ひ」の字型に曲折する景観は、印象的なポイントでした。



境川上流の曲折地点で

その川の曲折ポイントで神奈川県側の「広田地区」へ。付近一帯は、古墳時代から平安時代まで大集落が営まれていた「武蔵岡遺跡」であり、都・県域双方の範囲にかかる広大なものです。その中央に立つと不思議な二つの山＝タツゴ山がラクダのこぶのように並んでいるのが見えます。配布資料の画像と見比べながら、みなさんも不思議な景観に見入っておられました。



タツゴ山に見入るみなさま（写真：田邊）



武蔵岡遺跡からタツゴ山を眺める



二つのタツゴ山。広田・武蔵岡より

この山は、古代の人たちが“祖先や父母を祀る祖霊山”として、遥拝・信奉されていた可能性があり、「雄龍籠（オタツゴ）山」と「雌龍籠（メタツゴ）山」の名称と共に、雨乞いや龍伝説があります。付近の遺跡や出土物からも渡来系文化の流入を感じる特別な場所です。――そして武相の境目、山地と平野の境目にあたる展望地に立ち、古代のまちづくりに関わった官人も眺めた（？）相模野の素晴らしい景観を楽しみました。



境目の丘からの展望地で（写真：田邊）

コンビニ休憩後は謎の多い「川尻八幡宮」へ。ここは二十四節気の中の“雨水の日”（2月18日、農業を始める日）に長大な参道（全長1,200m以上）の東端から太陽が昇る不思議があります。ご参加の皆さんも、参道の先に朝日が上がってくる不思議を想像されていたようでした。



長大な参道の延長方向を眺める（川尻八幡宮）



「雨水の日」日の出観測会（川尻八幡宮にて2010年夏）



川尻八幡宮で（写真：田邊）

社地の「川尻八幡古墳」は天武天皇の子孫が眠るといふ伝説があり、実際に直刀や鉄鍬、須恵器が掘り出されています。飛鳥時代の高位官僚がこの辺を通過していた可能性を思うとき、東北地方ともつながる「奥州古街道」や「古代甲州道」の存在が頭に浮かんできます。

ラストは神社後方にある約100基の横穴古墳群が眠る森や「鎌倉街道」の案内塔、「温泉坂」の案内塔（明治時代に湯河原から毎日荷車で湯を運んだ宿があった）などを見て、「旧・城山役場跡」近くのバス停から橋本駅へと向かいました。

（文と写真：宮田 太郎）

小山・相原に多い古代遺跡の謎などを想像しつつの、歴史ロマンウォーク

3月31日の渋沢丘陵ウォーキング参加後膝痛が再発し、参加を見合わせていましたが、だいぶ良くなったことと午後からの3時間程度の短いコースだったので、リハビリを兼ねて参加させていただきました。

今回訪れた川尻・広田地区にはホタルの里・境川巡りなどで散策したことがありますが、さすがに宮田さんのガイドで歩くと色々な歴史講義を聞いているようで大変面白く、楽しい時間を過ごさせてもらいました。なぜ小山・相原には古代の遺跡が多いのか、なぜ立派な神社・寺院が多いのか等を学び又想像したりして、歴史のロマンを感じる1日でした。

<皆さまにご参考まで>

今回途中までしか行かなかった神秘の森「春日神社」ですが、グーグルマップで「川尻春日神社」を探すと写真も見つかります。著作権があるかもしれないのでここには掲載しませんが、すぐに見つかりますのでご興味のある方はトライしてみてください。

「ホタルの里」は、保存会の方々が、がんばっているおかげでホタルは多く見られます。ただホタルを見るには夜（19時以降）行かなければなりません、あの辺はかなり暗く、バス停に戻る道をよく覚えていかないと迷子になってしまい大変です。私は帰り道が良くわからなくなり、皆さんとトイレ休憩で立ち寄ったセブンイレブンで道を聞いたのですが、町田街道はあまり詳しくないようで、教えてもらったのは相原十字路（お分かりにならないかもしれませんが）迄の道でした。30分位歩いたでしょうか、雨は降ってくるし街灯が少なく暗いので大変でした。ご注意を！

（文；鈴木 弘）



広田地区の田んぼを歩く（写真：田邊）

フットパス専門家講座

三浦半島観音崎に海岸植物を訪ねて

[講師：日本植物友の会会長 山田 隆彦]

戦前の陸軍要塞史跡に濃い植物群

6月22日(土) 天気：晴 参加者：12名

三浦半島の観音崎に、海岸植物を訪ねた。この地は、明治時代に陸軍が要塞としていたところで、戦後、公園として整備され、一般に開放された。自然が長く保たれていたこともあり、植物が豊富である。6月23日の予定が、雨予報であったので、前日の22日に繰り上げての観察会となった。事務局の適切な判断で、青空の下、海岸植物を中心にたくさんの植物を訪ねることができた。

海岸は、強風、強い日差し、水不足、塩の飛散、強い紫外線など厳しい環境にある。その厳しい海岸に生育する植物を海岸植物と呼ぶ。他の植物との生存競争を避けることを選んだ植物達だ。今回観察した海岸植物のいくつかを紹介する。

タイトゴメ ベンケイソウ科

草丈は、5~12cmで黄色の小さな花を密生して咲かせる植物で、円柱形の葉は光沢があって分厚い。これは、水分を貯め乾燥に耐えるためで、また光沢があることで、強い太陽の光を反射する働きがある。名前は、高知県の方言で、「大唐米」とよばれた下等な米粒に葉の形が似ていることからついたという。本州(関東以西)、四国、九州の海岸の岩上に分布する。



タイトゴメ

ハマダイコン アブラナ科

花は、ほとんど終わっていたが、ところどころに淡紫色の花が残っていた。ダイコンが野生化したものといわれ、栽培されているダイコンとは、根が肥大しないだけで、他に区別点はない。果実は数珠状にくびれているが、熟しても裂けずに、くびれた所から切れ、海水に運ばれて散布する。

実際に果実が海面に浮くか試してみた(下の写真参照)。

『新牧野日本植物図鑑』には、ダイコンが野生化したものなので、肥料をやって栽培すると、ふたたび普通のダイコンになると書かれている。余談だが、長さが世界一(1.7m)といわれる大阪府守口市原産の守口大根は、ハマダイコンから淘汰されてできた品種である。



ハマダイコン



ハマダイコンの果実。海水に浮く



ハマダイコンの果実。熟すとバラバラになる

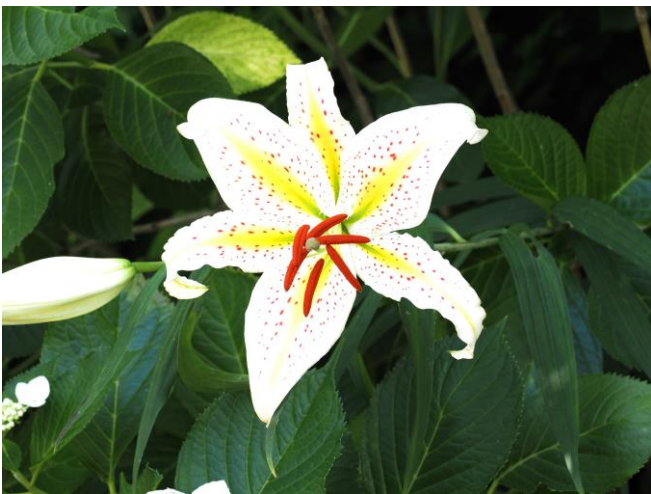
観音崎植物ウォーク

イワダレソウ クマツヅラ科
 イワダレソウは漢字で「岩垂草」と書き、よく岩から茎が垂れ下がって生えているので、この名がある。円柱状の穂状で直径2mmほどの小さな花をうろこ状の苞の間につける。地面を這い、草丈を低くして、丈夫な根を張り、風に飛ばされないようにしている。この果実もコルク質になっていて、海水に浮き、遠くに運ばれ分布を広げている。葉は暑くタイトゴメと同じように紫外線からの保護や水分貯蔵の役目をしている。



イワダレソウ

ヤマユリ ユリ科
 海岸植物ではないが、森の中で、濃厚な香りと共にあちらこちらで見られた。日本特産種であり、東北地方～近畿地方ではふつうに見られるが、北海道・北陸・中国地方・四国・九州には自生はなく、あれば栽培品が野生化したもので、自然分布の狭い植物である。花には黄色のよく目立つ筋があるが、この筋は蜜の在り処を示し、蜜標となっていて、昆虫を誘導する道筋である。



ヤマユリ。黄色い筋に注目

涼しい海風を背に受け、ムラサキニガナやムクロジ、ネジバナ、マサキ、アサザなどの花を見ながら一日の観察を終えた。

(文と写真：山田 隆彦)

今回のコースは京急線「浦賀」の近く、三浦半島から東京湾に突き出す観音崎です。海岸に出ると房総半島が見え、海上をコンテナ船などが行き交っていました。ここは元軍港・横須賀の入り口にあたり、永年一般人の立ち入りができなかったため、昔ながらの海浜の樹林が残されています。夏至直後の光線が強烈でしたが林の中の遊歩道なので気にならず、海風が吹いて快適でした。

最初に目に入ったのは深い緑の樹林とガクアジサイの花です。歩く途中どこでも咲いていました。海沿いの道を歩くとマサキ、トベラ、カミヤツデなど潮風（しおかぜ）に強い木々が次々と現れます。普通の植物は塩害で枯れてしまうため独特の植物相が形成されています。

道は林の中に続きます。少し高低差はありますが、木が鬱蒼としており探検気分です。途中、地名の基となった海食洞の観音様や「観音崎灯台」（有料なので入っていません）を通り、旧陸軍が作った砲台の跡やトンネルなどもありました。植物はフウトウカズラやヤナギイチゴなど。戦没船員の碑前の公園で昼食。近くで見つけたネジバナやムクロジの花について先生のお話で盛り上がりました。

海から離れた道沿いでヤマユリに出会いました。林縁でひときわ目立つものです。その後整備された公園のゾーンに入り、カラフルなアガパンサス（紫）、池の中の黄色いアサザの花やオレンジ色のヌマツルギクが印象に残りました。歩きながら会話がはずんだ楽しい一日でした。



マサキ



ムクロジ



ガクアジサイとヤマユリ



ヌマツルギク

(文と写真：森 正隆)

他のまちのフットパスをみてみよう

奥多摩駅の周辺を歩く

[講師：小林 道正]

ダム建設と石灰石運搬でできた 地域の残照の魅力

7月6日(土) 天気：晴のち曇 参加者：13名

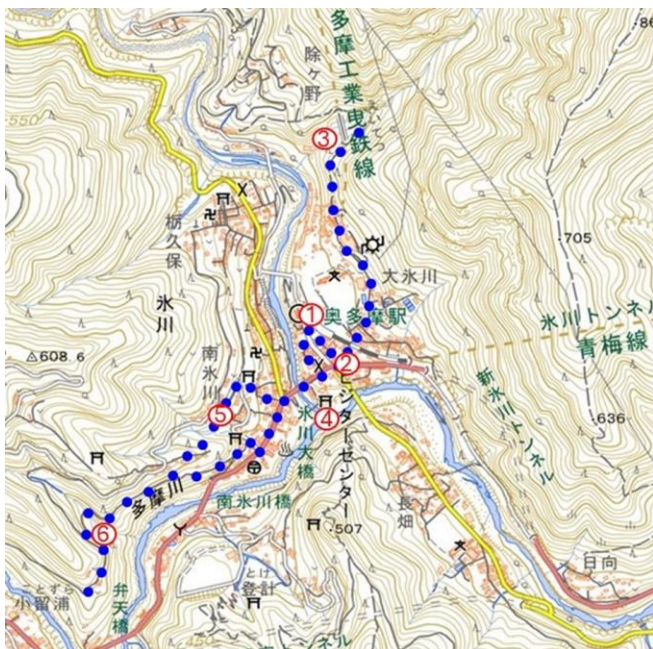
JR奥多摩駅は標高343mの東京都で最も高いところにある駅で、山小屋風の駅舎が人気です。土日は多くの登山者で賑わっています。



山小屋風の奥多摩駅舎

「奥多摩駅」は昭和19年にセメントの原料となる石灰石を運搬する鉄道に「氷川駅」という名称で開業しました。戦後になって東京都民の飲料水を確保する「小河内ダム」を建設するために、資材運搬の拠点として大きな役割を果たしました。

<コース紹介>①JR奥多摩駅⇒②奥多摩ビジターセンター⇒③奥多摩工業曳鉄線⇒④奥氷川神社・多摩川の河原(昼食)⇒⑤東京都水道局小河内線(廃線跡)⇒⑥奥多摩むかし道⇒①JR奥多摩駅



コースMAP

奥多摩は『東京の屋根』とよばれるほどの山地で、雲取山(2017m)を頂点にして急峻な山と深い谷が集まっています。地質は古生代と中生代の泥岩や砂岩、チャートなどの他に石灰岩が多く分布しています。

歴史的には『甲州裏街道』とよばれる武蔵国と甲斐国を結ぶ旧青梅街道が通り、交易路として人々が往来していました。

<①JR奥多摩駅から②奥多摩ビジターセンターへ>

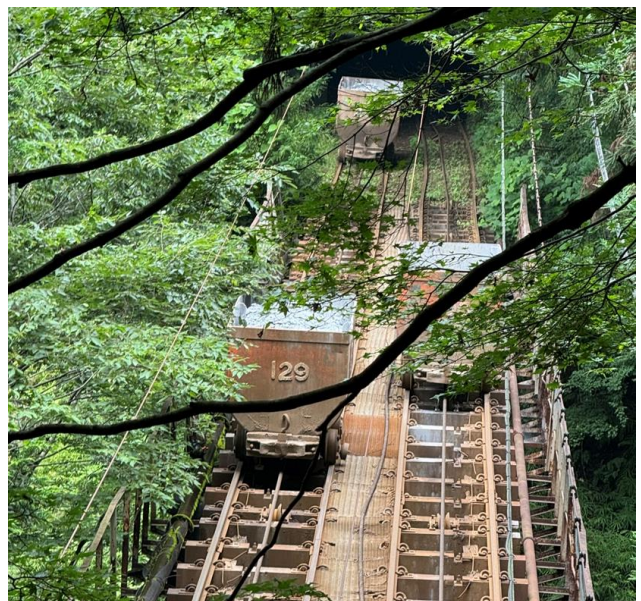
「奥多摩ビジターセンター」は自然や文化について分かりやすく展示し解説してくれる施設です。最近熊の目撃情報や被害が多発しているために、ツキノワグマの生態や習性について剥製や骨格標本を使って解説しています。

<③奥多摩工業の曳鉄線(ひきがねせん)>

「奥多摩工業」は石灰石を採石して運搬している会社です。石灰石はセメントの原料となる貴重な鉱物資源で、多くの建物や道路などを造り発展してきました。近年の石灰石は新しい素材として注目され、紙の原料、食品添加物、化粧品などに利用されているそうです。

「曳鉄線」は「えいてつせん」とか「ひきがねせん」と読まれています。トロッコをロープで繋ぎ線路の上をエンドレスで回している仕組みの鉄道で、スキー場のリフトのイメージです。昭和28年から現在も現役で稼働中です。

杉林の中に鉄橋とトンネルが見えてきました。残念ながら動いていませんでしたが、複線の線路の上にロープに繋がれたトロッコが4台停車していました。左側の線路に乗った2台には石灰石が乗せられ、右側は空でした。



石灰石を運ぶ無人トロッコ

石灰石の採石場は5km先にあり、トンネルと鉄橋で結んで線路を敷き、無人のトロッコを使って石灰石を運搬しています。70年前は空中を通るリフト方式でしたが、需要が増えて運搬量を増やす

ためにトンネルを掘って地中を通すようにしたそうです。運搬量の増加だけでなく、費用と安全性も格段に向上したそうです。

トロッコ1台の積載量は3t。径32mmのロープで276台のトロッコを36m間隔で繋いでいます。動くスピードは秒速2mとのことでした。

<④奥氷川神社>

さいたま市の「氷川神社」、所沢市の「中氷川神社」とともに『武蔵三氷川』として有名です。『御神体』の『三本杉』があります。お昼のお弁当は多摩川と日原川が合流する河原で美味しくいただきました。

<⑤⑥東京都水道局小河内線の軌道跡>

「小河内ダム」を建設するために昭和27～32年に使われていた資材輸送用の貨物線跡です。ダム完成後は西武鉄道が観光列車を走らせる計画だったそうです。しかし、採算性や安全性が確保できなかったのか実現することはありませんでした。線路跡に沿って『奥多摩むかし道』があり、歩くことができます。旧青梅街道です。

JR奥多摩駅に戻ってビールで乾杯しました。



貨物線跡のトンネルの上で手を振るみなさま



奥多摩駅でビールで乾杯！

(文と写真：小林 道正)

石灰石を運ぶトロッコと、トンネルや線路跡が深い杉林に包まれて

奥多摩駅は『関東の駅百選』の一つで、昭和19年に開業した海拔343mに位置する木造建築。趣のある駅舎です。駅舎のあちこちにツバメの巣があり、ツバメたちも大勢の登山客や観光客を迎えてくれています。

まずは「奥多摩ビジターセンター」で奥多摩の成立ち、自然や熊の生態などを受講。奥多摩の初歩的な知識を享受することができました。

奥多摩駅周辺は急峻な山々で、その中腹まで宅地化されており、アクセスの道路も急勾配です。降雪もあることから、コンクリート舗装には溝が刻まれており、冬期の運転は厳しいものと感じられました。

最初の目的地は「石灰石を採掘精製している奥多摩工業(株)」で、氷川鉱山で採掘した石灰石を運搬する森の中を5km走るトロッコ線路（かつては276台を32mmのワイヤーで連結）と鉄橋、トンネルを観ることができました。

午後からの「奥多摩むかし道」は旧青梅街道で全長は奥多摩駅から奥多摩湖までの10kmですが、今回は槐木（サイカチの木）までのアップダウンの約2kmのコース。並行して小河内ダム建設で資材を輸送した貨物線のレールやトンネル・鉄橋跡を間近で観られ、トンネル内を歩くこともできました。最終地「槐木」のサイカチの木は樹高15m、幹回り3mの大きなサヤがぶら下がることでも知られる古木で、土地の名称にもなっています。

多摩川の源流と急峻な山を背景に、産業遺産や土木遺産に触れながらの楽しい奥多摩駅周辺のフットパスでした。

奥多摩駅2階のカフェ「ポートおくとま」ではクラフトビールが飲めます。最後に「参加された13名の皆さんお疲れさんでした」で乾杯！ほどよい疲れを感じながらそれぞれ帰路に着きました。

(文：浅野 敏明)



貨物線跡のトンネルから出てきたみなさま (写真：田邊)

農と緑の管理

大雪による倒木やタケノコの豊作…… 宿緑地の管理は大いなる自然への対峙

町田市のふるさとの森は、市内の美しい緑地景観・歴史的環境の保護や、貴重な動植物が生育する自然環境の保全を目的として町田市が指定した緑地です。 私たちが管理する鎌倉街道に面した「鎌倉街道小野路宿緑地」は、本来は市がやるべきふるさとの森の保全を市民団体として協力支援し、保全を維持し、地形、植生、ゴミなどの管理を行っています。除草や清掃も大切な仕事ですが、みんなで緑を楽しみながら活動しております。

今年は、2月上旬に大雪に見舞われました。特に小野路では市街地と比べると大変な雪の量でした。竹林のシラカシの大木が雪の重みに耐えきれず、倒木しました。布田道は倒木による通行止めが数カ所、私たちの活動広場も全面にわたり、倒木で塞がれました。町田市公園緑地課に被害状況を報告するとともに、倒木撤去を依頼しました。町田全域で倒木被害が多発していること、ナラ枯れが発生して通行に危険な箇所から対応しているとのことでなかなか順番が回ってきませんでした。何とか3月末までに対応していただきました。

4月は、竹林管理のご褒美であるタケノコが発生する時期です。タケノコは豊作（表年）と凶作（裏年）が隔年にあらわれ、2024年は表年にあたります。タケノコの生育調査、タケノコ収穫まつり、穂先タケノコ収穫とイベントが続きました。雨後のタケノコの言葉の通り、一週間でビックリするほどのタケノコが次々に生えるのは感動ものでした。



豊作がうれしいタケノコ祭り（写真：伊藤）

5月以降は、活動場所を竹林から緑地に移し、草刈りを進めて行きました。緑・グリーンは、安らぎや落ち着き、平和などの意味を持っているようです。リラックス効果や疲労回復効果などがあるとされており、私たちの心を癒やしてくれています。気の置けない仲間と気持ちの良い汗をかき、みんなで緑を楽しみながら活動する楽しさは、日常の生活では得られない素敵な時間です。

お試し参加も大歓迎です。是非ご一緒に活動しませんか？

（文と写真：伊藤 右学）

タケノコ祭りで思うこと

今年の竹林はタケノコが豊作でした。皆の手で次々とタケノコが掘りあげられ、いつものように具たっぶりのタケノコ汁が好評でした。焚き火ではタケノコや松ボックリの炭も焼きました。一年に一度の楽しい一日です。

この日は皆張り切っていますが、寂しさも少し感じます。なぜなら普段フットパスで会う人たちの参加が少ないからです。参加者がもっと増えればもっと楽しい一日になりそうです。

今年はタケノコ祭りの翌週に初めて「穂先タケノコ」を収穫しました。2メートル以上に伸びた若竹の先端1メートルを切ると、これが「穂先タケノコ」です。一般のタケノコより精神安定作用のあるアミノ酪酸(ギャバ)の含有率が高いとの事。若竹をサクサクと切り倒す時は実に爽快です。

「竹水」も初めて採取しました。竹水は穂先タケノコを切った1~2週間後に竹の節と節の間に溜まります。竹を切ると確かに「竹水」がありました。これは飲料や化粧水に利用されているようで、皆でペタペタと肌につけるとしっとりスベスベになった気がしました。不思議な事にカラになった竹の筒にゆらめきながら竹水が湧き出てきて、神秘的な現象に目が離せませんでした。

こんな事を多くの人と一緒に体験出来れば、より楽しいタケノコ祭りになりそうです。

（文：鈴木 由美子）



「穂先タケノコ」と「竹水」（写真：横山）

父の休耕田を再生した 恵泉女学園大学の田植えに参加して

6月8日(土) 天気：晴 参加者：2名

朝から抜けるような青空に涼しい風が吹き、絶好の田植え日和だった。「別所」バス停より布田道を進むと「みどりのゆび」の宿緑地、その右手奥に田んぼがあります。当日は学園関係者、地域の農家の方、ボランティア市民の方と共に初参加の方も。

すでにうるち米、もち米用の2枚の田んぼに、今年はたっぷり水が張られており、苗床では苗取りが開始されていました。先生から作業手順の説明後、苗取り組（ボランティア）と田植え組（学生）に別れ、田んぼに散らばる。「みどりのゆび」から参加したNさんと共に”抜き足差し足”で苗床に。冷たい水が心地良い。尻餅をつかないよう気をつけながら中腰で苗を取り、藁で束ねる作業は腰が痛い。隣の田んぼでは先生と学生たちが横一列になって、束ねた苗を片手に田植えが開始されていました。多勢なので早い。苗取りが追いつかない。初参加の学生も多く、先生や先輩たちから叱咤激励の声が飛び交うたびに谷戸に笑い声が響き渡ります。周りの私たちもつられて大爆笑。

午前、午後で2枚の田んぼには早苗が美しく列を成していました。先生から「来年もやりますよー」と元気な声。

2011年に恵泉女学園大学により、父の休耕田が田んぼとして再生されることになりました。畑作授業は承知していましたが、稲作にも、とその熱意に感動した記憶があります。

当時93歳の父は田んぼの再生を何より喜び、1年間、苗床作りから始まり、田植え、下草取り、そして稲刈りと、先生や学生たちと共にありました。後に病床で「あの1年間は嬉しかったなあ」と振り返り、95歳で永眠いたしました。私も田んぼに行けば父に会えるような思いで毎年出かけています。秋の稲刈り、今から楽しみにしています。

(文：松尾 加代子)



広瀬儀平（当時93歳）さん、ご指導による休耕田田植え
（写真(2011.6)：田邊）

好ましい里山景観を 維持するために

旧小野路宿に隣接する谷戸中で、布田道に接する当会管理地では、ハイカーの往来も多いため、好ましい里山景観を維持していきたい。

①緑地の草刈り

気温が低い冬場は、草枯れにより草刈りは不要。しかし、5～6月頃から雑草は勢い良く伸び始めて、放置すれば緑地を埋め尽くしてしまう。

9～10月頃に気温低下で雑草の生長が止まる迄は、3週間程度の間隔で刈り続けるのが望ましい。夏場高温下で草刈りをするのは辛いですが、自然には夏休みがなく、手を抜けば雑草は容赦なく繁茂して、秋口には無数の種子を拡散する。会作業日では足りず、人目に付き易い物置と布田道の周辺は、適宜個人的に草刈りをしている。

②山地の整備

緑地の後背山地は、多数の倒木や笹藪で踏み跡すら見えない状態にある。

雑草が弱る冬場、下草刈りのうえ倒壊危険性が高い枯木は伐採しておきたい。しかし、冬場は竹林整備に傾注するため、必要な労力が割けない。

昨冬は個人的に笹を刈り、緑地に倒れそうな枯木へのアクセス路を開き準備しておいたが、結局は伐採出来なかった。

③作業勧誘の看板

里山に魅力がないのか、作業がしんどいからか、会員に参加要請しても特定の方以外は集まらない。状況打破の試みとして、2022年秋からボランティア募集看板を、会員有志3名で緑地物置前に掲示している。この看板で昨秋地元の方が来てくれた。

会員高齢化が進むなか、体力が求められる里山作業を継承するため、比較的若い方々に先ずはお試し参加してもらいたい。HPやSNS掲示を検討し、現地募集看板も継続が望まれる。

(文：合田 英興)



ボランティア募集看板（左）（写真：伊藤）



NPO法人「みどりのゆび」2024年9月～2025年3月 フットパス・スケジュール



持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：1000円（イベントによって変更あり） 申込：みどりのゆびHPまたは下記メール
★変更などがある場合も。必ず事務局に確かめてからお出かけください。 ☎ 042-734-5678 📠 080-5405-3904（神谷）

うれしいことに、初参加の方が増えてきました。今期も、ご一緒にフットパスを楽しみましょう。

●必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、昼食の予約など保証できなくなります。

●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度ご連絡ください。

ホームページ： <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>

メール： info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-8954 携帯：080-5405-3904（神谷）

<p>10月6日(日)</p> <p>【集合】 京浜急行線 「金沢八景」駅 改札口前 9:50AM</p> <p>【昼食】 弁当持参</p> <p>申込締切 9月29日(日) まで</p>	<p>『フットパス専門講座：横浜自然観察の森案内』</p> <p>【講師：日本植物友の会会長 山田 隆彦】</p> <p>【内容】ネナシカズラやイヌセンブリ・・・里山で見られる秋の草花を訪ねます。植物の豊富な自然公園です。</p> <p>【コース】金沢八景駅 → (バス) → 横浜霊園前 --- 横浜自然観察の森 --- 横浜霊園前 → (バス) → 金沢八景駅</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> ネナシカズラ イヌセンブリ </p>
<p>10月26日(土) ～27日(日)</p> <p>【集合】 東北新幹線 「福島」駅 改札口 10：30AM頃</p> <p>申込は事務局 へご相談</p> <p>申込締切 9月30日(月) まで</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう：福島市信夫山』</p> <p>【講師：NPOストリートふくしま山尾良平：信夫山150周年記念フットパス】</p> <p>【内容】福島は面白いまちです。奥州街道が県庁の脇を通り古くからの商人町でした。そのせいか際立つ名物はないのですが何を食べても美味しかったり、古いものを大事にしないと市民が文句をいう割には日本銀行があった場所や古い繁華街、あちこちに点在する蔵などセピア色の味があったりと、町全体があか抜けていて東京からの移住者も多いところ。さらにあまり知られていなくて意外なのが、まちの真ん中に鎮座する信夫山。遊園地のような観光場所と思いがちですが、太古の昔に大和国の皇子と母女王がここに逃げてきたときに、お供してきた御師が住んだ六供集落なども残る、趣のある山です。フットパス的にも良い環境で、福島市も信夫山フットパスをサポートすることになりました。</p> <p>【コース】 26日:福島駅 (10:30) → 福島市内観光 → フルーツ農園見学、飯坂温泉街フットパス、もしくは信夫山特別フットパス 懇親会 福島駅前ホテル宿泊 27日:信夫山150周年記念セレモニー (10:00) → 信夫山フットパス (11:00) 古民家西坂家で昼食 (12:00) 信夫山フットパス 午後3～4時解散</p>
<p>11月23日(土) ～24日(日)</p> <p>申込は事務局 へご相談</p> <p>申込締切 9月30日まで</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう：九州ハイランド（熊本県美里町、山都町、五ヶ瀬村、椎葉町）』</p> <p>【日本フットパス協会総会：全国フットパスの集い2024in九州ハイランド】</p> <p>【内容】毎年恒例の日本フットパス協会の年大会です。今年はいくつかの自治体が連携するという新しいスタイルのフットパスを試みます。多分22日から入って、2泊3日のほうが余裕があると思います。23日は午前中フットパス、午後フォーラム、24日はフットパスですが、詳細はもう少しして決まります。九州に行ってみたい方は事務局までご相談ください。皆さんのご希望に沿ってどのような旅程にするか工夫したいと思います。</p>

11月9日(土)

【集合】

JR中央本線
「阿佐ヶ谷」駅
改札口前
10:00AM

【昼食】

和田堀公園
「武蔵野園」
にて各自

「孤独のグルメ」でも紹介された釣堀に併設された食堂にて、昭和レトロを味わいます。

申込締切
11月2日(土)
まで

『他のまちのフットパスをみてみよう：阿佐ヶ谷フットパス』

【講師：浅黄 美彦】

【内容】中央線阿佐ヶ谷駅から井の頭線の西永福駅まで、杉並区を南北に歩きます。昭和の初めからできた鉄道沿線に沿った郊外住宅地の杉並区を、地形や川に沿って南北に歩くことで、見えてくる杉並の古層を辿ります。

「近代に鉄道ができるまでは、地域の構造を決めていたのは、街道と川である。」と陣内秀信氏（法政大学建築学科教授）・三浦展氏（消費社会や郊外研究の第一人者）は対談で述べていました。これをヒントに、川、神社、古道、商店街に着目しながら、少し違った視点から杉並区を探訪したいと思います。

【コース】JR中央線「阿佐ヶ谷」駅改札前 → 阿佐ヶ谷駅南口広場（コースの概要説明） → 中杉通り（都市計画道路 ケヤキ並木） → パールセンター（旧道の商店街） → 青梅街道を横切る（昔のまちの中地） → ドーモ・アラベスク（富田玲子設計の住宅） → 奇跡の団地阿佐ヶ谷住宅跡地を訪れる → 善福寺川 沿いの緑道を歩く → 和田堀公園・武蔵野園にて昼食 → 大宮八幡宮 → 井の頭線「西永福」駅にて解散



中杉通りのケヤキ並木



阿佐ヶ谷住宅（現存せず）



ドーモ・アラベスク（富田玲子設計）

11月17日(日)

【集合】

JR中央本線
「西八王子」駅
改札口前
10:00AM

【昼食】

弁当持参
または
途中のお弁当
屋さんで購入

申込締切
11月10日(日)
まで

『他のまちのフットパスをみてみよう：八王子いちょう祭りと浅川のメタセコイア化石』

【講師：小林 道正 ここだけの話「琥珀またはコパールが拾えるかも・・・」】

【内容】「八王子いちょう祭り」は昭和54年から続いている市民のお祭りで、甲州街道（西八王子駅から高尾駅まで）の両側に約4km770本のいちょう並木が美しく黄葉する秋に開催されます。

このいちょう並木は、昭和2年に多摩御陵の造営を機に植えられ、昭和51年に市制60周年を記念して「八王子市の木」に指定されました。

イチョウは「生きた化石」と言われています。他に「生きた化石」と言われている樹木にメタセコイアがあります。西八王子から歩いて2kmの浅川にはメタセコイアの大きな切り株の化石があります。数百万年前の八王子はメタセコイアの巨大樹木の原生林だったのです。

その切り株の周りを探すと、運が良ければ琥珀が落ちているかも知れません。

【コース】JR「西八王子」駅改札前 → 甲州街道「八王子いちょう祭り」 → <八王子市役所の庭園で昼食> → 浅川・化石観察 → (バス) → JR「八王子」駅解散



いちょう並木の甲州街道と高尾山



メタセコイアの化石（切り株）



コパール（準琥珀）

<p>12月7日(土)</p> <p>【集合】 地下鉄千代田線「根津」駅 2番出口 (地上・上野公園側) 10:00AM</p> <p>【昼食】 「谷中銀座」 近辺にて 自由昼食</p> <p>申込締切 11月30日(土) まで</p>	<p>『江戸・東京フットパスをみてみよう：江戸下町情緒が残る「谷根千」の“今”を歩く』 【講師：田邊 博仁 門前町の根津、寺院と路地の谷中、谷中江戸の名所日暮里】</p> <p>【内容】江戸の絵図や明治の地図と現在の地図・地形を比較しながら歩く「江戸・東京フットパス」。10年前に、人気の「谷根千」(谷中・根津・千駄木)をご案内した。下町情緒が色濃く残る根津や谷中を歩いているとほっとする。関東大震災や戦火を受けることが少なかった地域であり、表通り・横丁・裏通り・路地など江戸時代の町割りが、今でも残っている。都心の歴史ある地域の真ん中に位置しているが、高層ビルの高さと華やかな街とは真逆の、地べたに寺や木造の民家が立ち並び、広い空を感じる街である。</p> <p>最近では、レトロな町並みに加え、古民家を改装したモダンな店が増え、世界的に知られる東京の先端的なスポットとなり、インバウンド客が増えている。そんな「谷根千」の今を歩く。</p> <p>【コース】「根津」駅 → 根津2丁目界限 → 根津神社 → ヘビ道・よみせ通り → 谷中銀座 → 谷中寺町 → 谷中霊園 → 寛永寺 → 国際子ども図書館 → 上野公園 解散</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <p>根津神社</p> <p>谷中銀座</p> <p>古民家改造の店</p> </div>
<p>『フットパス専門講座：山地と平野部の境目をそぞろ歩く～東国（アズマのくに）フットパスへ～』 【講師：古街道研究家 宮田 太郎】</p> <p>NPOみどりのゆびが企画する活動では、これまで多摩丘陵や東京・武蔵野にて数多く活動してきました。また一方で、まだまだアプローチできていない関東山地に近いエリア(高尾山・陣馬・奥多摩エリア、道志・相模湖エリア、大山山麓・宮ヶ瀬湖エリアなど)も今後の候補コースに挙げられます。しかしながら、日帰りですとアクセスに時間がかかり、なかなか計画には入れられない点もあるかとは思いますが、まずは可能な範囲をもう少し拡大し、山地と平野部の境目にあたる「奥相模野」にちょっとこだわってみたいと思います。(宮田 太郎)</p>	
<p>12月19日(木)</p> <p>【集合】 JR横浜線 「橋本」駅 改札口前 11:45AM</p> <p>【昼食】 昼食は済ませ てから集合 申込締切 12月12日(木) まで</p>	<p>東国（アズマのくに）フットパスへ（その1） 『奥相模野の縄文大集落をフットパス（縄文ロードと川尻遺跡編）』</p> <p>【内容】奥相模野（相模原市緑区向原・大島地区）を通る縄文時代の大街道をテーマに探索します。かつて諏訪・八ヶ岳地方から多摩ニュータウン遺跡群が見つかった地域へ、黒曜石やヒスイを運搬した可能性のある経路や沿線の遺跡群を巡ります。また古代以来の関東山地のすそ野を通る「関東山ノ辺の道（高麗人大移動の道）」や、戦国時代に武田信玄軍が三増合戦の際に通過した津久井城を巡る古街道など、川向うも含めて遠望できるダイナミックな地形景観や集落の暮らしをフットパスで楽しめます。</p> <p>【コース】11時45分にJR橋本駅改札口前を出て右側デッキにある「ミウヰ橋本」正面入口前付近に集合。昼食をお済ませの上でご集合下さい＝路線バスで「原宿公園西」バス停下車～相模原段丘と「関東山ノ辺の道（高麗若光ライン）」～古街道のゴールデンクロス～縄文黒曜石ロード（大島地区）～川尻中村遺跡と新小倉橋～川尻石器時代遺跡～「久保沢」バス停～橋本駅。行程約4km。解散は15時45分頃</p>
<p>3月15日(土)</p> <p>【集合】 JR横浜線 「橋本」駅 「ミウヰ橋本」 入口前集合 10:00AM</p> <p>【昼食】 弁当持参 申込締切 3月8日(土) まで</p>	<p>東国（アズマのくに）フットパスへ（その2） 『座間の“八景の棚”と北条氏照の娘・貞心尼が居た“環状集落&月見の丘”』</p> <p>【内容】相模川の段丘崖から見る丹沢山系の山並みやハケ（崖）下湧水が流れ出す清廉なる「道保川」。その川を巧みに利用して、環状島地形を造って小田原北条氏照の娘・貞心尼が暮らした、大変貴重な環状集落(館城跡)の跡やハケの古道を探索します。また尼が二十三夜の月見や陽の出入りを観測していた伝説の丘も意外な場所にて発見(?)できましたのでご案内します。</p> <p>【コース】午前10時 JR「橋本」駅改札を出て右手の「ミウヰ橋本」入口前～JR相模線に乗り替え＝「下溝」駅下車～八景の棚～三段の滝～相模川（各自弁当昼食）～姥川～道保川緑道～下溝八幡宮～下溝堀之内館（北条氏照の娘・貞心尼の環状集落と館跡）～GIONスタジアム（相模原公園、月米の松跡）～「女子美術大学」バス停～「相模大野」駅またはJR「古淵」駅。それぞれ約5km。解散は15時45分頃</p>

<p>2025年</p> <p>1月21日(火) 22日(水) 23日(木)</p> <p>【集合】 【昼食】 事前に事務局へお問い合わせください</p> <p>申込締切 1月14日(火)まで</p>	<p>『鶴川・町田の常駐フットパスガイド始めます：北海道からのお客さまと一緒に』</p> <p>【ガイド：田邊博仁、浅黄美彦、横山禎子、伊藤右学、神谷由紀子他】</p> <p>【内容】 鶴川や町田は数年内に駅前などが大きく開発されることとなり、ますます来訪者の多い地域となります。鶴川・町田を拠点とするみどりのゆびでは、インバウンドも含めて増加する地域訪問者のガイドを始めたいと考えています。茅葺古民家が4つもあり、さらに岡上と繋がってますます面白くなるコースの多い鶴川。老舗と若い店がゴチャゴチャと共存するコロナでも賑わっていた町田。ディープなコースをお客さまのご希望に合わせてアレンジしながらガイドします。</p> <p>今度北海道からガイドの依頼がありましたので、3日間、鶴川、小野路、麻布十番（予定）のよりディープなところを「みどりのゆび」でご案内します。</p> <p>会員の皆さまもよろしければ気軽にご参加ください。珍しい建築物も含めディープで楽しい内容を考えていますので、面白いですよ。</p> <p>【コース】：21日 鶴川：午後 鶴川巡り 夕方「みんなの古民家」で懇親会 22日 小野路：午前午後 鶴川から出発 小野路あちこち巡り 23日 麻布十番：午前+昼食 面白いところハイライト巡り</p>
---	--

<p>2024年～ 2025</p> <p>12月20日(金) ～22日(日)</p> <p>12月末から 1月中旬</p>	<p>小林 道正 講師より、高尾山に関して、下記の2案のご案内が可能とのことです。 11月17日（日）の「八王子いちろう祭り」時に、ご相談しましょう。</p> <p># 1：12月20日～22日（※12月21日（土）冬至）高尾山から「ダイヤモンド富士」と「ムササビ観察」のご案内。</p> <p># 2：12月末から1月中旬ごろまで、高尾山の「氷の華」といわれているシモバシラのご案内。</p>
--	---


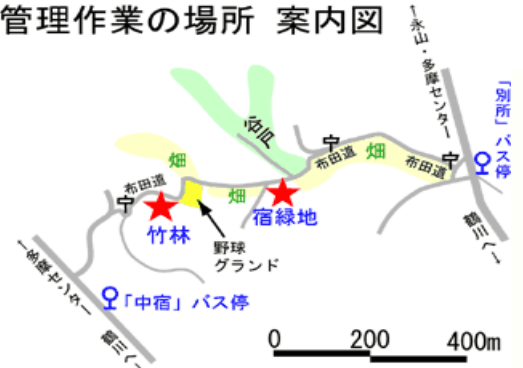
「鎌倉街道小野路宿緑地」管理スケジュール 2024年9月～2025年3月

「鎌倉街道小野路宿緑地」の管理は、除草や清掃も重要な仕事ですが、みんなで緑を楽しみながら行っています。例年のタケノコまつりに加え、今年は、自然観察会、小野路の果樹園でのくだもの狩り、近くのお洒落なカフェでの音楽鑑賞なども出来たら良いと考えています。仲間、つながり、居心地の良さなどを体感できる、そんな活動を目指しています。

皆さま、奮ってご参加ください。

★雨天では、必ず事務局に確かめてからお出かけください。

集合：現地 10時、作業：2 時間、持ち物：飲料水、軍手、長靴（必要なら）

2024/2025年	 「緑と農の管理」	管理作業の場所 案内図
9/8 (日)	緑地草刈 午前・午後	
10/5 (土)	恵泉の稲刈	
10/13 (日)	緑地管理	
11/3 (日)	緑地管理+竹林管理	
12/15 (日)	竹林管理	
2025/1/19 (日)	竹林整備	
2/16 (日)	竹林管理	
3/23 (日)	竹林管理	

* 作業日が雨の場合は、事務局に実施の確認をお願いします。その場合は翌週に延期します。

* 午前・午後の作業日の昼食は、弁当持参か、または外食。

NPO法人みどりのゆび ホームページのご紹介

ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると、右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックしますと、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントスケジュール、カレンダーおよびイベント申込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

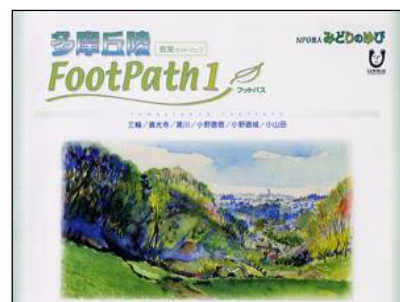
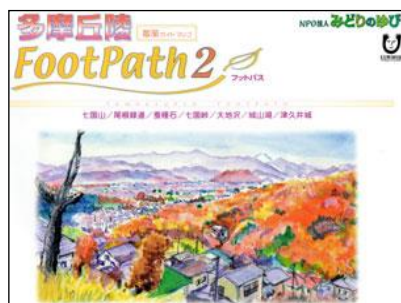
●「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能になりましたので、ご活用ください。

フットパスガイドマップ4冊（改訂版発行）

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道など、歴史の面影が随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、『多摩丘陵FootPath1』¥500+税、『多摩丘陵FootPath 2』¥500+税、『まちだフットパスガイドマップ』¥800+税、『まちだフットパスガイドマップ2』¥700+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店・久美堂（原町田本店、四丁目店、本町田店）と啓文堂（鶴川店）、町田ツーリストギャラリー、小野路宿里山交流館でのご購入、または、下記のみどりのゆび事務局へお申し込みください。



～ 編集後記 ～

住民となって28年。我が鶴川も随分変わった。緑の多さがほとんど決め手だった引っ越しは、地元発祥の「みどりのゆび」の活動を識るに至り、“終の住処”の地に。数年内には大きく変容する駅周辺と緑に包まれた史跡や民家、小径などの遺産への思いが、インバウンドも含めて来訪者を惹きつける活動として広がるよう、この会報の役割を受け止めつつ。（横山）

過去の「会報」を振り返って見て、巻頭の記事を書きました。皆様の若く活発な活動が、懐かしく思い出されました。イベントはどのように決めるのですか？との質問をいただきました。特に、方向性は打ち出さず、いつもの講師の方々に、自由に決めていただいています。皆様方の希望をお聞きして、企画することもあります。ご提案をお待ちします。（田邊）

NPO法人「みどりのゆび」

- ・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
- ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
- ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>